

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「クラブと地区の  
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「しなやかな変化で  
奉仕を高めましょう」



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー  
2560地区ガバナー 新保 清久  
高田ロータリー会長 橋詰 敏一  
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守  
小池 猛紀

## 第9回例会 ■ 9月8日(金)

No.9

### 会長挨拶 ● 橋詰 敏一



御存知のように、当クラブ最年長（103歳）の加藤良作名誉会員が、9月6日に他界されました。クラブ在籍51年であり、歴史と伝統ある高田ロータリークラブの象徴的存在でおられました。皆様と共に、ご冥福をお祈りしたいと存じます。9日の本葬には、クラブを代表して弔辞を述べさせていただきます。より交流のある方々が多々いらっしゃる中ですが、お許しください。

さて、先程の理事会で国際奉仕委員会よりの要請にて、地区のDDFによるグローバル補助金プロジェクトに参加する事となりました。会員の皆様にもご理解賜りたいと存じます。

また、会員増強委員会より、本年度の増強4名、会員数70名を目標としており、その為にメンバー全員の協力をいただきたく、1人1名以上の候補

者のリストアップをお願いする点についても、理事会にて承認されました。どうか御協力を願います。

また、先週の日曜日には、IM記念ゴルフ大会が糸魚川カントリークラブで開催され、当クラブより2組6名の方から参加いただき、素晴らしい成績をあげられました。誠にありがとうございます。

### お知らせ

9月6日午前6時15分に加藤良作名誉会員がご逝去されました。（享年103歳）ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。



### 出席報告

出席率 96.49%

### メイクアップ

大谷光夫君・遠藤 巖君・羽深耕時君・石倉 悟君・岩崎幹男君・古渕英一君(9/3IMゴルフ大会)

### 委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

棚橋博史君——岩の原ワインマスカット・ベリー A2015が日本ワインコンクールで金賞部門最高賞をいただきました。深雪花（赤）も銀賞のトップをいただきました。皆様のご愛顧のお陰と心から感謝しております、ありがとうございます、尚、マスカットベリー

A2015の販売は9月16日からです。

杉山高男君——長女（ますみ）がアメリカの正式な教師になりました。

SAA——出席見込み数と実出席数ピッタリ！食事ピッタリは2回目

親睦委員会——9月の会員お誕生日 各お祝い

## 本山年度決算報告及び監査報告

本山前会長、中田前幹事からの概略の報告がなさ

れると共に、大島会計監査より監査報告がありました。

## 幹事報告

配布物：週報No.8

報告：加藤良作名誉会員

お通夜 9/8 18:30

ご葬儀 9/9 12:00

(いずれもセレモニーホールゆきつばきにて)

## 会員卓話

### 高田旧市街と浄興寺大門通り

吉原 耕一 君



今年の1月からお仲間に入れていただきました長養館の吉原耕一です。卓話のお話をいただいた時にまず思いついたのが、座布団の前うしろ等の「いまさら聞けない和のマナー」という固いテーマでしたが、昨日のやすねの箕輪さんの卓話を大変面白く聞かせていただき、「浄興寺大門通りを切り口に 歴史と街歩きを楽しむ30分」という柔らかいものに考え直しました。

私は、浄興寺大門通りまちづくり協議会という団体の事務局をやらせていただいております。平成16年6月19日設立で現在13年目です。街づくりプランに基づいて活動しており、現在の主な活動は大根焚き・花の小径・大門だよりの発行などです。

本日はその通りの歴史と街歩きをお話ししてみたいと思います。浄興寺大門通りは、浄興寺山門から本町通り（旧北国街道）へ至る約600メートルの東西の通りです。道路としては、本町通りよりさらに東方100mの道路で大門通りに突き当たっています。

皆様もよくご存じのように、高田の旧市街中心部は碁盤目状街区です。5本の南北の通り（北国街道と西裏、東裏の町屋通りと2本の寺町通り）と8本の東西の辻（札の辻、馬出、二～六の辻、浄興寺大門、駅前通り）で構成されています。南北5本の通りとすべて直角に交わっているのは「浄興寺大門通り」だけです。その理由は浄興寺大門通りが歴史的に延伸されてきた結果だからです。江戸時代の最初の浄興寺大門通りは、山門から表寺町通りまでの短いものでした。明治13年から浄興寺の独立、本山昇格運動が開始されます。その結果、第二段階として、明治21年（1888年）に表寺町通りから仲町通りまで延伸されます。同じ年に親鸞聖人霊廟も完成しています。ちなみに、この道が通ったおかげで、長養館は明治25年に仲町から現在地に引っ越すことができました。信越線開通高田駅開業は明治19年（1886年）、電灯がついたのが明治40年（1907年）、高田開府300年祭が大正2年（1913年）です。大正15年に高田市青年連盟と実業クラブが浄興寺頭揚会を組織して活動を始め、第三段階として昭和3年（1928年）5月に仲町通りから本町通りまで延伸されます。表寺町交差点・仲町交差点・本町交差点にそれぞれ石柱が立っていますので、散歩のときにぜひ裏側も見てください。

まちづくり協議会では、浄興寺大門通りを「祈りの道」として捉えています。現世から西方浄土へ向かっての道ということです。俗に言えば、本町（昼の繁華街）から仲町（夜の繁華街）を歩いて寺町（あの世の繁華街）へ至る道です。歩いて回る街並み観光の点では、町家と寺町を結ぶ中心の導線としても期待されています。電柱電線の整理、石畳み、落ち着いた景観など「祈りの道」にふさわしい歩行者空間の創出と住民にとって快適な町並み空間の形成という、来街者の期待と生活者双方の期待に沿うよう、今後も活動してまいります。

皆様もぜひ、ぶらぶらと浄興寺大門通りへお出かけ下さい。

